

看護学科

講義要綱

科目	論理的思考	単位数	1	開講時期	1年前期
授業形態	講義・ロールプレイ	時間数	30	必修区分	必修
担当者	中村 孝一				
授業目的	論理的思考力について知り、日常生活や医療現場において論理的に思考・理解・表現するための基礎力を養う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 論理的思考力について、その基礎的な仕組みを知る。 2 資料や新聞記事などを読み、その論理構造を理解したり、批判的にとらえたりする。 3 理由や根拠を明確にしながら自分の考えを表現する。 4 論理的な話し合い（議論）ができるスキルを身につける。 				
技術項目					
授業概要	まず、日常生活においてなぜ論理的な思考が必要か、論理的思考力とはどのようなものかを学ぶ。その上で、学生生活や日常生活等の身近な話題を取り上げ、情報・資料（例えば新聞記事やネット情報など）を収集・分析し、論理的な主張を構築し、文章に書いたり、発表したりする。また、相互に意見を伝え合い、論理的な議論を通して相互理解が深まるような言語活動を展開する。				
授業展開	回数	内容	準備等	担当者	
	1	論理的思考力とは何かを考える		中村 孝一	
	2	日常生活における論理的思考の必要性を知る			
	3	資料を読み、論理的に読解する			
	4	資料を批判的に読む（読解表現力）			
	5	帰納的思考を知る			
	6	帰納的思考で表現する			
	7	三角ロジック（主張・根拠・理由付け）を知る			
	8	三角ロジックを使って考えを伝え合う			
	9	説得力ある議論・討論を行う			
	10	反論を予想して考えを組み立てる			
	11	相手を意識して論理的文章を作成する			
	12	互いの文章を読み合い論理的に批判する			
	13	複数の新聞記事を読み比べる			
	14	ロールプレイによるスピーチ・話し合い			
15	まとめ（論理的思考とコミュニケーション）終了試験				
履修条件					
評価方法	受講記録（毎回の授業後のミニレポート） 課題レポート パフォーマンス評価 終了試験				
テキスト	授業中に適宜資料を配布する				
参考書	授業中に紹介する				
備考					

看護学科

講義要綱

科目	生活行動科学	単位数	1	開講時期	1年後期
授業形態	講義	時間数	30	必修区分	必修
担当者	内山 秀樹				
授業目的	看護に必要な数学・物理学について理解し、看護実践でその知識を（具体的な計算を含め）活用するための基礎力を身につける。看護・日常生活を含めたこの世界を科学的・定量的に捉える態度を身につける。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 看護に必要な基本的な計算やグラフの読み取りができるようになる。 2 看護に必要な基本的な物理学について、理解し説明できるようになる。 3 看護・日常生活を含めたこの世界を科学的・定量的に捉えられるようになる。 				
技術項目					
授業概要	テキストを基本に、日常生活や宇宙からも題材を取りつつ、看護に必要な数学・物理学について解説する。問題演習や簡単な演示実験も適宜行う。				
授業展開	回数	内容			担当者
	1	看護・日常生活と数学・物理の関係を考える			内山 秀樹
	2	看護の基本となる計算1			
	3	看護の基本となる計算2			
	4	看護によく出る単位と計算1			
	5	看護によく出る単位と計算2			
	6	看護計算の方法1			
	7	看護計算の方法2			
	8	看護に関係の深いグラフとその書き方・読み方			
	9	看護の基礎となる力の話1			
	10	看護の基礎となる力の話2/看護の基礎となる電気の話1			
	11	看護の基礎となる電気の話2			
	12	看護の基礎となる波の話1			
	13	看護の基礎となる波の話2/看護に必要な放射線の話1			
	14	看護に必要な放射線の話2/全体のまとめ			
15	終了試験・解説				
履修条件	予復習を必ず行うこと。				
評価方法	筆記試験・授業中の提出物				
テキスト	「看護に必要な やりなおし数学・物理」、時政孝行、照林社、2013年				
参考書					
備考					

看護学科

講義要綱

科目	情報リテラシー	単位数	1	開講時期	1年前期
授業形態	講義	時間数	30	必修区分	必修
担当者	大久保 誠也 (12) 東野 定律 (18)				
授業目的	情報科学の基礎および看護に求められる「情報リテラシー」について学ぶ。				
到達目標	情報科学の基礎および看護に求められる「情報リテラシー」をはじめ、WordやExcelといったソフトの使用方法を基本とし、統計ソフトを使用しながらグラフや表作成、統計処理の基本について理解する。				
技術項目					
授業概要	本授業では、コンピュータを用いた情報処理技術やよく用いられる統計手法の考え方や理論について概説する。またコンピュータの統計ソフトを使用しながらグラフや表作成の基本について学び、科学的研究方法の基礎を培う。				
授業展開	回数	内容			担当者
	1	はじめに (計算機へ+C10:H24のログイン)			大久保 誠也
	2	情報とは			
	3	文章作成の基礎 (PCの基礎とメモ張等による文章作成)			
	4	文章作成の基礎 (MS-Wordによる文章作成)			
	5	表計算の基礎 (MS-Excelによる表計算の基礎)			
	6	表計算の基礎 (MS-WordとMS-Excelを組み合わせた利用)			
	7	パワーポイントを用いたプレゼンテーション			東野 定律
	8	看護研究の予備知識			
	9	散布図・相関係数			
	10	回帰直線と近似曲線			
	11	正規分布			
	12	統計的推定			
	13	統計的検定			
	14	一元配置分散分析			
15	終了試験・期末まとめ				
履修条件	個人が操作できるコンピューターがあること。				
評価方法	課題・試験				
テキスト	石村 友二郎 他 Excelで学ぶ医療・看護のための統計入門 東京図書				
参考書					
備考					

看護学科

講義要綱

科目	キャリアデザイン	単位数	1	開講時期	1年後期
授業形態	講義・演習	時間数	15	必修区分	必修
担当者	小田 三成				
授業目的	看護専門職者としての信念を持ち、主体的に人生を設計できる力を身につける。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 キャリアをデザインするための基礎的知識を理解する。 2 看護を目指す者としての自己の特徴を知り、自己課題を表現できる。 3 自分の強みや課題をふまえ、看護学校での生活をデザインできる。 4 看護専門職としての自分の将来像を具体的にイメージできる。 5 自己の描いたキャリアデザインの実現に向け、身につける力を明らかにし、表現できる。 				
技術項目					
授業概要	<p>自らの人生と看護のキャリア形成について、自分の将来をデザインするための基礎的能力を養う。看護師を目指す者としての自分自身に向き合い、働くことに対する考え方や希望を明らかにする。また、働く先輩の話聴いて、自分の将来像を描く。キャリアデザインの実現に向けて、身につけたい力を学ぶ。</p>				
授業展開	回数	内容	準備等	担当者	
	1	キャリア形成とは何か		小田 三成	
	2	キャリアデザインの基礎			
	3	社会で必要な力（社会人基礎力）			
	4	自己の分析（自分を知る）			
	5	先輩に学ぶ仕事としてのキャリア			
	6	先輩に学ぶ人生としてのキャリア			
	7	キャリアプランニングシート作成			
8	自分のキャリアをデザインする（最終評価）				
履修条件	<p>キャリアデザインの基礎を学び、活用していくことで、専門職者として働く準備をする。課外活動のキャリア講座やその他の学校行事と関連させながら修得していくため、ポートフォリオを活用する予定。</p>				
評価方法	最終レポート・毎回の提出物				
テキスト	授業中に指示する				
参考書					
備考					

看護学科

講義要綱

科目	生物学	単位数	1	開講時期	1年前期
授業形態	講義	時間数	30	必修区分	必修
担当者	雪田 聡				
授業目的	生物の営みを細胞レベルで理解しながら、生物とは何かを考え、生命観をもつきっかけとする。				
到達目標	<p>「生きている」とはどういう状態でしょうか？一般的に言われている「正解」はありますが、生物には多くの例外があり、「一般的な正解」が唯一絶対のものではありません。命に係わるお仕事を目指す皆さんにとって、ヒトに限らず多くの生物の在り方を知った上で「生きている」という事を考える、すなわち受講者の皆さんが自分なりの「生命観」を確立することはとても大切な事であり、そのきっかけとなることがこの講義の目標です。そのために、日常の実体験や馴染みのある現象とリンクさせながら生物のもつ精巧さや美しさを紹介し、生物とは何かをともに考える講義をしていきたいと思えます。</p>				
技術項目					
授業概要	生物を細胞レベルで理解するとともに、生物の不思議で巧みな営みな生物のシステムを感じ取り、不思議や疑問に思ったことを大切に、生物とは何か、生きるとは何かを考える。				
授業展開	回数	内容	準備等	担当者	
	1	「生きている」とは何か		雪田 聡	
	2	細胞小器官と細胞の形態			
	3	タンパク質の構造と機能 酵素の働き			
	4	代謝概論、好気呼吸における解糖系			
	5	好気呼吸のクエン酸回路と電子伝達系のしくみ、嫌気呼吸と発酵			
	6	メンデルの遺伝法則（優性、分離、独立の法則）の理解			
	7	細胞周期、細胞分裂、染色体の構造の理解			
	8	遺伝子とDNAの理解			
	9	DNAの転写とmRNAの翻訳			
	10	性決定と生殖の多様性			
	11	脊椎動物の初期発生① （受精から原腸陥入まで）			
	12	脊椎動物の初期発生② （原腸陥入から体節形成まで）			
	13	遺伝子改変技術の最先端			
	14	進化と系統			
15	終了試験と解説				
履修条件	生物学は、実際に生物を観察した結果を記述・考察する学問のため、覚えることが多い暗記科目と思われるかもしれませんが、しかし、ただの暗記事項と思わずに、そこに見え隠れする不思議で巧みな生物のシステムをどうか意識して感じ取ってください。そのためにも、講義を聴けばいいという受け身の姿勢ではなく、ちょっとでも不思議に思ったことや気になった事はぜひ気軽に質問してください。必ず即答できるとは限りませんが、どんな質問にもできる限り丁寧に対応します。				
評価方法	筆記試験				
テキスト	新課程 フォトサイエンス生物図録 鈴木孝仁 数研出版				
参考書	基礎からのスタート大学の生物学 道上達男 裳華房 系統看護学講座 基礎分野 生物学 医学書院				
備考					

看護学科

講義要綱

科目	人間関係論	単位数	1	開講時期	1年前期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	上野 永子				
授業目的	基本的な対人関係に関する理論の学習と、グループワーク・ロールプレイを通して、看護師として人間関係を形成する基盤を学ぶ。				
到達目標	基本的な人間に関する理論を学んだ上で、看護の基本となる対象者との援助的人間関係および、組織における人間関係について理解を深め、看護師として適切な人間関係を形成する力を養う。 人間関係に関する諸理論や、ワークやロールプレイによる体験的な対人関係の学びを踏まえ、自己の対人パターンを認識し、他者との信頼関係を築くための関わり方について考える。				
技術項目					
授業概要	人間の心と行動についての基礎理論を学び、自分と他者を理解するきっかけとなる自己認識力と対人コミュニケーション力の向上を目指した体験学習を行う。				
授業展開	回数	内容	準備等	担当者	
	1	エリクソンの心理社会的発達理論 ヒトの人間関係の発達		上野 永子	
	2	自己理解・他者理解			
	3	コミュニケーションとは ①コミュニケーションの機能 ②コミュニケーションのチャンネル ③コミュニケーションの障害 ④コミュニケーションのコンテキストと文化差			
	4	対人コミュニケーション ①非言語的メッセージ ②認知的バイアス			
	5	説得的コミュニケーションとバーンアウト			
	6	人間関係の理論と研究Ⅰ ①同調実験 ②傍観者効果			
	7	家族への援助 一 家族と家族システム一			
	8	家族への援助 ①家族のアセスメント ②家族支援の実際 ③キューブラー・ロスの死の受容過程			
	9	カウンセリングと心理療法 ①支持的療法 ②来談者中心療法			
	10	③精神力動的療法 ④認知行動療法			
	11	アサーションについて			
	12	DESC法のロールプレイ、事例検討			
	13	人間関係の理論と研究Ⅱ ①集団での課題遂行 ②リーダーシップ			
	14	コーチング			
15	まとめ・終了試験				
履修条件	体験を通じて人間関係の理論やスキルを学び、自己理解・他者理解を深めるために、講義では積極的にワークやロールプレイを取り入れる。ワークやロールプレイに苦手意識を持つ人がいるかもしれないが、回避せずに挑戦してほしい。				
評価方法	終了試験				
テキスト	系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院				
参考書	講義内で適宜紹介する				
備考					

看護学科

講義要綱

科目	健康とスポーツ	単位数	1	開講時期	1年前期
授業形態	演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	月見里 泰世				
授業目的	スポーツを通して仲間との協調性や体力の向上をはかり心身の健康を保つ				
到達目標	1 スポーツを通し、スキンシップやコミュニケーションで信頼性を養い、仲間意識を育てる。 2 協調性を養い、体力の向上を図る。 3 楽しく運動し、体を動かしたことで気分転換になり、意欲が高まる。				
技術項目					
授業概要	縄跳び、ドッチボール、リズム体操など全員で行うものやサッカー、ソフトテニス、バドミントン、卓球、インディアカなどチームで行うもの、いろいろな種目の運動を行います。走る、反復横跳び、立幅跳び、閉眼片足立ちなどの運動能力測定もやります。以上のことは、その日の天気、気温を見ながら授業内容（種目）を決めます。暑い日も多いですが、頑張りましょう。				
授業展開	回数	内容	準備等	担当者	
	1	ラジオ体操 ストレッチ体操 ボール鬼		月見里 泰世	
	2	ラジオ体操 補強運動 ソフトバレー			
	3	ラジオ体操 補強運動 ボール運動			
	4	ラジオ体操 補強運動 インディアカ			
	5	ラジオ体操 ボール鬼 リレー山越谷越ドッチボール			
	6	ラジオ体操 補強運動 長縄跳び			
	7	ラジオ体操 補強運動 バドミントン			
	8	ラジオ体操 サッカー			
	9	ラジオ体操 補強運動 卓球			
	10	ラジオ体操 補強運動 ソフトテニス			
	11	ラジオ体操 補強運動 バレーボール			
	12	ラジオ体操 補強運動 バスケットボール			
	13	ラジオ体操 補強運動 ウォーキング			
	14	ラジオ体操 補強運動 ダンス			
15	ラジオ体操 補強運動 短縄跳び				
履修条件	遅刻せず休まず出席すること。体育は好き嫌い（できる、できない）ははっきりしてしまう科目ですが、体を動かしてもらうのが目的のため、積極的に種目に参加してください。				
評価方法	日常の出席状況・授業態度 種目への真面目な取り組み姿勢で、運動能力ではなく「やる気」、できなくても苦手でも取り組む姿勢、気持ちを重視する				
テキスト	使用しない				
参考書	使用しない				
備考					

看護学科

講義要綱

科目	静岡地域学	単位数	1	開講時期	1年前期
授業形態	講義	時間数	15	必修区分	必修
担当者	江口 昌克 (7) 村田 真一(4) 須藤 智(4)				
授業目的	地域創造や地域共生を行うために必要な、地域の見方や行動を学ぶ。				
到達目標	1 静岡市・清水区の特徴が様々な視点からわかる。 2 これから活動を行う静岡市・清水区の暮らしや地域創生の関わり方がわかる。				
技術項目					
授業概要	地域にある様々な人たちと協働しながら活動している実際を紹介します。これから静岡市・清水区で活動をする皆さん、自分たちの役割や関わり方を一緒に学んでいきましょう。				
授業展開	回数	内容	準備	担当者	
	1	地域創造と資源循環 地域を創造するモノ・コト・ヒト		江口 昌克	
	2	地域創造と人材育成① 地域社会の課題の現状		須藤 智	
	3	地域創造と人材育成② 地域社会の課題解決と人材育成			
	4	地域創造とスポーツ振興		村田 真一	
	5	地域創造とスポーツクラブ			
	6	地域創造と共生・協働① 未来に向けた地域共生		江口 昌克	
	7	地域創造と共生・協働② 演習：地域ブランディング			
8	終了試験				
履修条件					
評価方法	出席状況・試験				
テキスト	使用しない				
参考書					
備考					